

ケツコン艦と執務

sin—shin

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

なんでもないケツコン艦との執務です

目次

| | |
|---------------------------------|---|
| 潮、大鷹、鹿島、香取、榛名、山城、扶桑、 阿武隈との執務 | 1 |
|---------------------------------|---|

潮、大鷹、鹿島、香取、榛名、山城、扶桑、阿武隈との執務

—潮編—

提督「潮よ」カリカリ

潮「何ですか？」ペラッペラッ

提督「今日の演習って誰が出てるの？」カリカリ

潮「大鷹さんを旗艦に金剛さん、谷風ちゃん、神鷹さん、矢矧さん、イタリアさんです」カキカキ

提督「りよーかい。ありがとう」ケシケシ

潮「いーえ」ペタンペタン

提督「……………」ガタッ

潮「……………」パラパラ

提督「……………」ガチャ　パラパラ

提督「あれー？」ペラッペラッ

潮「どうしたんですか？」ピタッ

提督「いや、2―2の資料ってどこだったつけ？」トン　　パラパラ　　トン　　パ
ラパラ

潮「2―2ならこっちの棚ですよ」ガタツ　　ガラガラ

潮「はい」スツ

提督「すまなんだ」

潮「それと、読み終わったらちゃんと棚に戻せて何回言えばわかるんですか」スト
ン

提督「はいはい」とストン　ストン

潮「返事は1回」

提督「へーい」ピシヤ

潮「まったたく……」

提督「んー…喉乾いた。なんかあるかなー？」ガチャ

潮「……」カリカリ

提督「コーラがあつたわ。潮も何か飲むか？」

潮「じゃあアクエリで」カリカリ

提督「ない」

潮「じゃあコーラでいいです」ペラツ　　ジー

提督「俺の分しかない」

潮「じゃあなんでもいいですよ」ペラッペラッ

提督「ok。ほらよ」トン

潮「ありがとうございませ…懐かしっ」

提督「誰がセノビックなんて置いてったんだろうな」プシュツ

潮「さあ…？」プシュツ

提督「そういや俺、昔セノビックと一緒にハエ食べたことあるよ…」ゴクツゴクツ

潮「その話10回は聞きました…」コクツコクツ

潮「ふう」

提督「ふう…そうだったっげエエエプ」

潮「汚い」

提督「すまんすまん。炭酸の宿命だから許してくれ」

潮「はあ…早く机戻ってください」

提督「あいよ」スタスタ

提督「うう……」コックリ　コックリ

潮「はあ……仮眠とりましようか？」ガタツ

提督「すまねえ……」ガタツ

潮「たまには早く寝てくださいよ」ポスン

提督「やるべき事が沢山あつてな……」ポスン

潮「ゲームでしようが」

提督「バレたか」

潮「まったく……ほら、膝」ポンポン

提督「ん……」ポスッ

潮「耳かきは？」ナデナデ

提督「ん……昨日やったからいいかな……」ウトウト

潮「そうですか」ナデナデ

提督「ん……」ウト　ウト

潮「……」ナデナデ

提督「……ス……ス……」

潮「おやすみなさい、提督」ナデナデ

—潮編 終了—

—大鷹編—

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」カリカリ

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」パラパラ

提督「…………ふう」コキコキ

大鷹「……………」ガタツ

提督「……………」パラパラ

大鷹「……………」ガチャ　カチツ　　コオ

提督「……………」ペタンペタン

大鷹「……………」ガラガラ　　サア

提督「……………」カリカリ

大鷹「……………」コポコポ

提督「うー……………」ゴキゴキ

大鷹「どうぞ」コトツ

提督「ん、サンキュ」

提督「……………ふう」

大鷹「夜更かしは程々にお問い合わせしますよ」ストン

提督「善処する」

提督「ん……………昼にすつか」ガタツ

大鷹「わかりました」トントン

提督「……………」カチツ チチチチチチ ボツ

大鷹「……………」トントントントン

提督「……………」ポトポト

大鷹「……………」コトツ ジャー

提督「……………」グツグツ

大鷹「……………」クシユツ」ジャー

提督「……………」プチプチ　ファサツ

大鷹「…ありがとうございます」カチャカチャ

提督「ん」グツグツ

提督「……………」ジャー　ゴシゴシ

大鷹「……………」キュツ　キュツ

提督「……………」ジャー　キュツ

大鷹「……………」キュツ　キュツ

提督「……………」カチャ　カチャ

大鷹「……………」キュツ　キュツ

提督「……………」カチャ　カチャ

大鷹「……………」ガラガラ　ピシヤ

提督「……………」ハア—

大鷹「……………」　ギユツ

提督「ふつ……………」ニツ

大鷹「ふふつ……………」クス

—大鷹編 終了—

—鹿島編—

提督「……」カリカリ

タツタツタツ バアン!

鹿島「失礼します!」ハアハア

提督「おー。珍しいなお前が遅刻なんて」

鹿島「遅れてすみませんでした!」ペコッ

提督「いいさいいさ。遅刻なんて大したもんじゃないし」ペタンペタン

鹿島「で、でも……」

提督「ふー……。鹿島、ちよつと」チヨイチヨイ

鹿島「はい……?」

提督「遅刻ぐらいでそこまで気にすんな」ナデナデ

鹿島「あ……はい……」

鹿島(温かい……)

提督「うし、んじやさつさと仕事終わらせちまおうぜ」パッ

鹿島「あつ…」

提督「どした？」

鹿島「い、いえ…：…そうですね。鹿島、頑張ります！」

— 演習場 —

提督「今日は対潜演習だったか？」

鹿島「はい。五十鈴さんが択捉型の子達とやるみたいですね」

提督「そうか。お、きたきた」

提督「五十鈴——！」フリフリ

五十鈴「ん…：…なに——？」

提督「呼んでみただけ——！」

五十鈴「用もないのに呼ばないでよー！」

提督「すまーん！」

提督「…うし」

鹿島「何ですか今のやり取り？」

提督「うーん…特に意味は無いんだけど。昔っからの癖みたいなものかな」

鹿島「そうですか…クシユツ」

提督「ん。鹿島、これ着てな」ヌギヌギ ファサツ

鹿島「あ、ありがとうございます」

提督「寒い中外に出させちやつてすまんな」

鹿島「いえ…というか提督さん、寒くないんですか？」

提督「うん。全然寒く_nぶへえーくしよい!!」ブバツ

鹿島「きやつ!もう、やつぱりこれ返します!」スツ

提督「いいって。俺なんかより鹿島の方が大_jへえーくしよい!!」ブハツ

鹿島「その言葉は嬉しいですけど着てください!」

提督「あーもう!わーったよ。その代わり…」

鹿島「…?」

提督「てい」ギュー

鹿島「きやつ!？」

提督「これなら二人とも温かい」ギュー　ナデナデ

鹿島「てつ提督さん!？」

提督「あーもう、黙って俺の腕の中にいろ。また寒くなる」ギュー　グリグリ

鹿島「は、はい／／／」

提督「よろしい………ん？」

択捉「こ、これが大人のイチヤイチャっていうものですか……／／／」

松輪「はわわわわ／／／」

佐渡「佐渡さまも混ぜろー!」

対馬「うふふふ。司令、大胆ですね…」

福江「は、破廉恥な／／／」

提督「お前ら、演習中だぞ?」

「いっちのセリフよ」

提督「あー…ははは」

五十鈴「まったく…みんなの気が散るから執務室に戻ってくれろ?」

提督「…だそうだ。戻るか」

鹿島「は、はい。す、すみませんでした…」

五十鈴「鹿島は何も悪くないわ。悪いのは全部提督だから」

提督「なんだなんだ、最近やってないからって妬いてんのか？」

鹿島「え？」

択捉「あれ？」

松輪「今…」

佐渡「最近って…」

対馬「ということは…」

福江「五十鈴さん、もしかして…」

提督「ん…？あ、やべ…」

五十鈴「貴方ねえ／＼／…！」ワナワナ

提督「やっべえ逃げるぞ鹿島！」ガシツ

鹿島「えっ？きやつ！」ダツ

五十鈴「待ちなさーい!!」ダダダダ

—鹿島編 終了—

—香取編—

提督「香取、無線は？」

香取「万事OKです。ノイズもありません」

提督「よし。第一艦隊聞こえるか？」ガガツ

Roma『こちら第一艦隊旗艦Roma。問題ないわ』ガガツ

提督「今回は中部海域だから気をつけていけよ。続いて第二艦隊」

長良『こちら第二艦隊旗艦長良！問題なく聞こえるよ！』ガガツ

提督「朝から元気だな。次、第三艦隊」

多磨『こちら第三艦隊旗艦多磨。炬燵が恋しいにや』ガガツ

提督「帰るまでに出しとくよ。次」

赤城『こちら第四艦隊旗艦赤城。お腹が空きました』ガガツ

提督「さつき朝飯食っただろうが、ったく。……艦隊、出撃準備」

皆『『』 艦 装 展 開 『』』

提督「抜錨!!!」

提督「…ふう」

香取「提督、お疲れ様です」コトツ

提督「んあ。ありがとな」ズズー

香取「いえ。またすぐに指揮ですが、今は一息つきましよう」

提督「だな…ふう」

提督「香取、新しく入った子達はどうだ？」

香取「皆すごくいい子ですよ。ただ、初月さんはちよつと口が…」

提督「ああ…。まあ、初月はああいうやつだからな、しょうがないさ」

提督「さすがに初対面で『お前』呼ばわりはびつくりしたけど」

香取「本当ですか？」

提督「うん。アツキーがものすげー謝ってたな」ハハハ

香取「そんなことが…。これは後で私からもちゃんと言っておかないと」

提督「やめやめ。個人の特徴を尊重しろ」

香取「口調を直すのは規律を守る最低限度だと思いますが…」

提督「いーのいーの。敬語なんてあってもなくても同じなんだから」

香取「……………まあ、提督がそこまで仰るなら…」

提督「なんだったらお前も敬語じゃなくなつたつていいんだぜ？」

香取「それはないですな」

提督「カツチカチだなあ。ま、いいけどさ。それよか…」

Roma『提督、そろそろ作戦海域よ』

提督「つと、わかつた。そのまま全艦単縦陣を維持。対潜・対空警戒も怠るなよ」

Roma『了解。…作戦中なんだから世間話は程々にしてよね』

香取「す、すみません…」

提督「申し訳ない」

Roma『…作戦完了。艦隊、帰投するわ』

提督「了解。気をつけて帰ってこいよ」

Roma『ええ。全艦、輪形陣に移行』

提督「…ふう」カチャ

香取「これで中部海域は突破ですか」

提督「んにゃ、まだ離島ちゃんと踊らにゃならんよ」

香取「そうでしたか…あら？」 ツーツートン

提督「まったくあそこはなんで陸上型が2人も…」

香取「提督！緊急入電です！」

提督「…どこからだ」

香取「南西諸島…長良さん達です！」

提督「繋げろ。状況を聞く」

香取「はい！」

提督「長良、何があつた？」 ガガッ

長良『姫級と会敵しました！今交戦中です！』

ドオン

ドオン

提督「種類と数は？」

長良『戦艦棲姫が2体、空母棲姫が1体、くっ…！口級Fが3体です！』

提督「わかった。すぐに援軍を送る。資源は捨てて全力で帰ってこい」

長良『了解！』

提督「香取！機材を！」

香取「もう準備出来てます！」

提督「サンキュー！」

ピンポーン

提督『次から言うやつは緊急出撃しろ。加賀、瑞鶴、翔鶴、摩耶、夕立、大淀』

提督『空母は艦戦2の艦爆・艦攻1ずつ。翔鶴は艦戦1つを彩雲に変えろ』

提督『摩耶と夕立は対空装備。大淀は1-1型乙を持ってけ。残りは主砲な』

提督『場所は南西諸島だ。急げ！』

提督『次に——』

長良『提督！援軍と合流しました！』ガガッ

提督「わかった。お前らはそのまま鎮守府まで撤退しろ」

長良『わかりました！』

提督「加賀ちゃん」

加賀『なにかしら？』ガガッ

提督「お前達は時間稼ぎだ。んだが可能なら沈めても構わん」

加賀『わかりました。敵の編成は？』

提督「ダイソンが2体のBBAが1、RFが3体だそうだ」

加賀『なるほど…了解したわ』

瑞鶴『あれで分かるんだ…。それにしても提督さん、時間稼ぎって一体どういうこと

?』ガガッ

提督「じきにわかるよ。…ウチに手を出したことを後悔させてやる」ボソッ

瑞鶴『提督さん?』

提督「なんでもない。気をつけていけよ」ガガッ

提督「香取、第二群の準備はできたか?」

香取「はい。…時々提督は冷酷ですよ」

提督「…まあな」

提督「あー、お前ら聞こえるか?」ガガッ

加賀『提督』ガガッ

提督「今すぐそこから全速で退避しろ。巻き込まれちまうからな」

加賀『…わかりました。皆、引くわよ』

瑞鶴『提督さん、巻き込まれるって?』ガガッ

提督「そろそろ見えてくるよ」

瑞鶴『んー?あれって……』

瑞鶴『ウチの主力戦艦達じゃない!ってまさか……』

提督「そのまさかさ」ニタア

瑞鶴『やっぱ!!』ガガッ

提督「大和オ!準備はいいかあ!？」

大和『いつでも!』ガガッ

提督「しやあ!総員構え……」

戦艦達『『『『………』』』』

提督「撃てえー……!!!」

ドガアン!!ドガアン!!ドガアン!!

瑞鶴『うーわー……』

加賀『これは……』

大和『……目標、沈黙しました』

提督「おk。んじゃ一応偵察機で確認してから帰ってきて」
大和『了解です』

提督「……」ズズー

提督「……ふう」カチャ

香取「…お疲れ様でした」

提督「香取もな。久々に濃いー日だった」

香取「ですね。あの、提督」

提督「うん？どうした？」ニコニコ

香取「い、いえ…。では、私はこれで失礼します」

提督「んー。改めてお疲れ様。ゆっくり休めよ」フリフリ

香取「はい。では」ガチャ

バタン

香取「……」

提督『ん？どうした？』ニコニコ

香取（彼のことは愛している。でも——）

提督『そのまさかさ』ニタア

香取「あの一面だけは、どうしても慣れないわね…」

—香取編 終了—

—山城編—

提督「グー…グー…」

山城「……っ！」ドゴツ

提督「ぐぼえあ!!……何すんだテメー！」

山城「こ、こっちのセリフよ。何執務中に寝てんのよ」

提督「昨日激務だったからしやーねえだろ！」

山城「…スケジュール管理できないアンタが悪いんでしょ」

提督「だとしても殴って起こすな！」

山城「ハイハイわかったわよ。次から気をつけるわ」ストーン

提督「つたく……なんでお前はいつも…」ブツブツ

山城「ふんっ」ファイツ

提督「山城―この書類……」

秘書机「……」コツゼン

提督「ま―たあいつ黙って昼飯行ったのか……」

提督「やっぱりケツコンしたのは練度の為だけだったのかなあ……」

提督「……俺も昼飯食お」

提督「ふーむ……」ズルズル ペラ ペラ

提督（最近ネルソンの戦果が落ちてきてるよなあ……やっぱり頼りすぎで疲れてんのかもな）

提督（胸熱砲もまだ試してないし……次は長門に任せるか。ネルソンは暫く休みにしよう）

山城「……」

提督「……」ゴク ゴク パラパラ

提督（艦隊の平均は……大体50か。兄貴のとこ程ではないけど、だいぶ強くなったな）

山城「……ねえ」

提督「……あ？なんだ、帰ってたのか」

山城「……」

提督「……あんだよ？」

山城「……別に。あ、それとこれ預かってきたから」スッ

提督「ん……外出許可書か。クリスマスだからか多いな」ペラッペラッ

山城「そうね……」ストン

提督「……」カリカリ

山城「……」カリカリ

提督「……」ペタンペタン

山城「……」カリカ…

提督「……」ペタンペタン

山城「……ねえ」コトツ

提督「あ？」ピタッ

山城「クリスマス…アンタは予定入ってるの？」

提督「……別に。夜に皆とのパーティーがあるぐらいだな」

山城「そ……」

提督「……………」カリカリ

山城「ねえ……………」

提督「あん？」ピタツ

山城「その、もし、暇だったら…」モジモジ

提督「……………」

山城「これ……………一緒に行かない…？」スツ

提督「遊園地…？」

山城「たまたま、そう、たまたま余ってたから！期限も近いし、勿体ないから！」

提督（いや、何も聞いてないんだが……………）

提督「……………まあ、暇だしいいよ」

山城「そ、そう…。わかったわ」

提督「……………でも、なんで俺？」

山城「え？」

提督「いや、それこそ扶桑とか西村の誰かと行けばいいじゃん。何で俺なのかなーつ

て

山城「そ、それは……………」

山城『姉様……山城はもうダメです……』チーン

扶桑『あらあら……また何かやったのね』

山城『はい……。実は、提督が眠ってたんで起こそうとしたんですが……つまずいてしまつて……』

山城『その勢いで殴っちゃつたんですー！』ワーン！

扶桑『あらあら……』ヨシヨシ

山城『しかもすつごい怒つてて……絶対嫌われたあー！』ウエーン！

時雨『元気だして山城』ナデナデ

山城『しぐれえ……』グスツ

時雨『やつちやつたのは仕方ないよ。だからここから持ち直そう』

山城『で、でもどうやつで』グスグス

時雨『これさ！』ペーン

山城『遊園地のチケツト……？』

時雨『うん。これでデートをして、汚名返上といこうよ！』

扶桑『いい案ね。山城、行ってきなさい』

山城『で、でも……私なんかと行ってくれるでしょうか……？』

時雨『そこは心配いらないでしょ』

扶桑『そうね』

山城『ど、どうして……?』

扶桑・時雨（だって、提督も山城のことが大好きなもの）

山城『……?』

時雨『まあ、とにかく大丈夫だから誘ってきなよ』

扶桑『ええ。善は急げ、よ!』

山城『ええ……?』

山城「その、他の皆は予定が埋まってたから……」

提督「ふーん……珍しいこともあるもんだな」

提督「ま、わかった。楽しみにしてる」ニコツ

山城「つ……!そ、そう……」

提督「うし、んじやその為にも仕事ちゃんとしねーとな!」

山城「そ、そうね!」

山城（ありがとう二人とも……）

—山城編 終了—

—榛名編—

「て……………て……………さい……………」

提督「ん……………」

「提督……………起きてください……………」ユサユサ

提督「ん……………？」

榛名「提督——朝ですよ——起きてください——」ユサユサ

提督「ん……………榛名……………？」ポケー

榛名「はい！榛名です！おはようございます！」ニコツ

提督「……………おやすみ」パサツ

榛名「あつ！提督二度寝しないでください——」グイー

提督「あと……………」

榛名「5分でもだめです——」グイー

提督「5日……………」

榛名「予想の斜め上!!？」

提督「……………」ボー

榛名「提督、ジャムとマーガリンどっちがいいですか？」テキパキ

提督「……………」ジャム」ボソッ

榛名「え!？」

提督「……………」ジャム」ボー

榛名「わかりましたジャムですね。それと今のうちに顔洗ってきてください」テキパ

キ

提督「……………」ノソノソ

榛名「じゃあ、いただきます！」パシッ

提督「ん……………」

榛名「提督？そろそろ体起きましたか？」ヌリヌリ

提督「……………」少し」ヌリ　ヌリ

榛名「はぐっ……はぐっ……ん。これから執務なんですから、しっかりとお願いします
よ」

提督「うん………」 モグ モグ

榛名「準備できましたか？」

提督「……うん、始めるとするか」

榛名「はい！……スイッチ入りましたね」

提督「まあそろそろシヤンとしないとだしな」

提督「ん……榛名、ここ間違えてんぞ」

榛名「え……？あ、本当ですね。すみません、すぐに直しますね」

提督「うん」

提督（……あれ？ここも間違えてる……ここもだ……）ペラッ

提督「榛名……？」チラッ

榛名「はい、なんですか？」ニコッ

提督「……いや、なんでもない」

榛名「そうですか。……あ、もうこんな時間ですね」

提督「ん……そうだな。区切りいいところで終わらせて飯行くか」

榛名「はい！」ニコッ

提督（……）

提督「うし、午後も仕事頑張るか！」

榛名「はい！」

提督「ん……榛名」ペラッペラッ

榛名「っ……！はい、なんででしょう？」

提督「残りのネジっていくつあるー？」ジ

榛名「残りは……6……8つですね」

提督「ん、ありがとう」

榛名「いいえ……」

提督「榛名ー」

榛名「……………」

提督「榛名ー？」チラッ

榛名「スー……スー……」

提督「……やっぱりか」ガタッ

提督「夜戦任務の後に俺を起こしに来たんだもんなあ……そりや間違えだらけになるわ」ナゲナゲ

榛名「んう……」スリスリ

提督「ふー……。さて、と」

榛名「ん……………はっ！」ガバツ

榛名（私……………寝て……………）パサツ

榛名「ん……………毛布？」

提督「おー。起きたか」カリカリ

榛名「て、提督すみません！私いつの間にか寝ちやつてて…」

提督「いいっていいって……………はい、終わり」コトツ

榛名「え……………」

提督「ん……………疲れたー……………」ゴキゴキ

榛名「て、提督？榛名の分の書類が見当たらないのですが……………」

提督「榛名の分？それならもうないけど……………」

榛名「ええっ!?!じゃあ今日の執務は……………」

提督「終わったよー」ボスツ

榛名「そ、そんな！提督、何かお仕事はないんですか!?!」バサツ

提督「あ？何言ってるんだ？」

榛名「だ、だって…榛名、寝てましたから…その分のお仕事をしないと…」

提督「…はあ…」。榛名、ちよつと隣来て」
チヨイチヨイ

榛名「は、はい…」。トテトテ
ポスッ

提督「…」

榛名「そ、それで提督、なんでs」

提督「ハイッ!!」グイッ

榛名「きやつ!」ボスッ

提督「…うし」

榛名「て、提督!」ワタワタ

榛名（急に引つ張られたと思つたら、膝枕!）

提督「…榛名よ」ナデナデ

榛名「は、はい…」

提督「ごめんな」ナデナデ

榛名「…?!何故提督が謝るんですか?!寧ろ榛名の方が謝るべきです!」

提督「いや、俺が悪い。…昨日の夜戦任務から寝ないでそのまま俺を起こしに来て

くれたんだよな？」ナデナデ

榛名「え、ええ……」

提督「だから寝ちやっただら？」ナデナデ

榛名「す、すみません……」

提督「謝るな。把握してなかった俺が悪い」

榛名「でも……」

提督「いいから。今はゆっくり休め」ナデナデ

榛名「……」

提督「な？」ニコッ

榛名「……わかりました……」

提督「ん、それでよし。晚メシになったら起こすからな」ナデナデ

榛名「はい……提督……」

提督「ん？」

榛名「ありがとう……ごじます……」

提督「……ん」

—榛名編 終了—

—扶桑編—

扶桑「失礼します」ガチャ

扶桑「提督、本日の秘書艦業務に…あら？」

シーリーン……

扶桑「いない…まだ寝てるのかしら？」スタスタ

—提督私室—

扶桑「提督？」コンコン

シーリーン……

扶桑「返事がない…提督、入りますよ？」ガチャ

提督「うー……」グルグル

扶桑「提督!?大丈夫ですか!？」ダッ

提督「扶桑……か……」

扶桑「顔が真っ赤……!今明石さん呼んできます!!」

提督「うーん……」

明石「風邪ですね」ピッ

扶桑「やっぱりそうですか……」

明石「ええ。かなり重い症状ですが……まあ薬飲んで寝てたら治りますよ」

扶桑「よかった……」ホッ

明石「今薬持ってきますから、それまで見ていてください」スクツ

扶桑「あ、はい」

バタン

扶桑「提督、今明石さんがお薬持ってきてくれますから」

提督「お………。わるいな………」

扶桑「こんなんじや今日はお休みですね……」

提督「そうだな………」

扶桑「何か飲みたいものありますか？」

提督「じゃあスポドリでも………」

扶桑「わかりました。今持ってきます」スクツ

提督「頼んだ………」

扶桑「えーつと……これね」パシッ

扶桑「提督、お持ちしましたよ……つて」

提督「ありがとー……」ペラリ

ペラリ

扶桑「何してるんですか!?ちゃんと寝てないと！」

提督「んにゃー……これ今日までだから終わらせとかないと……ゴホツゴホツ！」

扶桑「私がやっておきますから！今は安静にしてください！」

提督「いやでも……」

扶桑「つべこべ言わない！寝てください！」

提督「うー………わかったよ……」

扶桑「まったく……」

『お薬持つてきましたよー』

扶桑「あ、はーい」

明石「…よし。それじゃ、あとは暖かくして寝かせてください」

扶桑「わかりました」

提督「わるいなー……」

明石「何度も言いますが安静にしていってくださいよ。あなたはこういう時でもじつと
してないんですから」

提督「うー……」

扶桑「そこに関しては私がどうにかします」

明石「お願いしますね。それじゃ」バタン

扶桑「……さて、それじゃ私は仕事しますね」

提督「俺も……」ムクリ

扶桑「何度も言わせないでください。提督は寝てください」

提督「ちっ……」ポスッ

扶桑「まったくもう……なんでこういう時は真面目なんですか……」

扶桑「……………」カリカリ

扶桑「……………」カリカリ

扶桑「……………」チラッ

提督「zzzzzz……」

扶桑（葉が効いたのかしら……）ガタツ

提督「zzzz……」

扶桑「まだちよつと苦しそうね……」

提督「うー……」ダラダラ

扶桑「すごい汗……」フキフキ

提督「ふそう……」

扶桑「ここにいますよ」ギユツ

提督「ん……すう……」

扶桑「……お仕事終わるかしら……」

山城「失礼しまーす……」カチャ

扶桑「あら山城。それに潮ちやんと大鷹さんも。どうしたの？」

潮「皆からの差し入れを持ってきました」ドサツ

扶桑「そうなの？ありがとうございます」

潮「いえ。…提督の様子はどうですか？」

扶桑「今は寝てるわ。まだちょっと苦しそうだけど……」

提督「うーん……」

大鷹「……本当ですね」

山城「姉様、何か手伝えることは無いですか？」

扶桑「じゃあ……林檎を剥いてくれる？」

山城「わかりました」

潮「潮も手伝いますよ」

大鷹「では私も」

扶桑「ありがとう3人とも」

提督「zzzz……」

山城「本当に起きないわね……」ツンツン

潮「この人、寝付きはいいですから」

大鷹「そうですね。まあそれで朝苦労するんですが……」

山城「さすがにケツコン艦2Topは違うわね」

扶桑「本当ね……」

提督「うう……」

山城「うなされてる……」

潮「提督、潮はここにいますよ」ギユツ

大鷹「安心してください。私はここにいますから」ギユツ

提督「……ニコツ」

山城「すご……」

扶桑「……」

—————

山城「じゃ、私達はこれで失礼しますね」

潮「お騒がせしました」

大鷹「何かあつたら力になりますから」

扶桑「3人ともありがとう。助かったわ」

潮「いえいえ。では」

バタン

扶桑「……………」

『提督、潮はここにいますよ』

『安心してください。私はここにいますから』

扶桑「妬けるわね……………」

提督「ん……………よく寝た」ノビー

扶桑「あら…起きたんですね。お身体の調子はどうですか？」

提督「んー、マシになったけどまだちよつとダルいや」

扶桑「そうですか。ならまだ寝ていては？」

提督「そうする…つて、何だこの差し入れの数は……………」

扶桑「艦隊の皆からだそうですよ。よかったですね」

提督「なるほどね。…ん……………なあ扶桑？」

扶桑「はい？」

提督「この林檎、食べさせてくれない？」

扶桑「……………いいですよ」

提督「ありや、すんなりいった」

扶桑「どういう意味ですか？」

提督「別に。んじゃ、あ……………」

扶桑「あ、あーん……」

提督「……ん、美味しい」シヤリシヤリ

扶桑「よかったです」ニコッ

扶桑（今は、私だけの提督……ね♪）フフッ

提督「どした？」

扶桑「いえ、なにも♪」

—扶桑編 終了—

—阿武隈編—

提督「んー……眠い……」

提督「今……何時……？」ムクリ

AM 10:00

提督「遅刻じゃん……」

提督「目覚まし……止めたっけか……？」

提督「まあいいや。今日の秘書艦は……」グッ

提督「あ……………」パサツ

阿武隈「スー……………」スー……………」

提督「……………」何やってんだコイツ……………」

提督「おーい……………」あぶう起きろ……………」ユサユサ

阿武隈「んへへ……………」そつちじゃないよ……………」ニへー

提督「……………」ま、いいか」スクツ

阿武隈「へぶつ……………」ボスツ

提督「暫く寝かせといてやろ……………」フアサ

阿武隈「ふふ……………」♪」スヤスヤ

—————
—————
—————

提督「……………」ペラツペラツ

提督「む……………」ズズー

『あああ……………!!!』

提督「……起きたか」カリカリ

バタバタバタ バァン!!

阿武隈「もおー!! 提督う!! 起きたんなら言ってくださいよお!!」

提督「開口一番がそれか……その前に言うことがあるだろ」ズズー

阿武隈「え……? あっ……えーつと……」タラタラ

提督「……ふう。まあ、朝 俺を起こしに来てくれるのは助かったよ」コトツ

提督「が、目覚ましを止めた後に寒いからって一緒に寝るな。起こすんなら起こしてくれ」

阿武隈「わ、私だって起こそうとしたんですよ! でも提督の部屋暖房ないから……」

提督「はあ……わかったよ。今度からストーブでも置いとくよ」

阿武隈「そ、それはダメ!」

提督「は? 何で?」

阿武隈「そ、それは……」

阿武隈(提督とくつつけなくなるから……なんて言えない……)

阿武隈(何か……何か理由を………ん?) ピラッ

阿武隈(こ、これだー!) キュピーン

阿武隈「ほ、ほら提督! イベント後で資材もギリギリなんですから! 無駄なことに経

費を使っちゃダメですよ！」ピラッ

提督 「ぐ……それを言われると痛い……」

阿武隈 「で、でしょう？だからストープはまた今度にしましょう！」

提督 「むう………ん？」

阿武隈 「？どうしたんですか？」

提督 「いや……その資材管理表……ボーキそんなになかったつけ？」

阿武隈 「え……？あれ、本当ですね」

ボーキサイト：1274

提督 「おつかしいなあ……イベ終わる前は8000はあつたんだが……」ペラッペラッ

阿武隈 「見間違いじゃないですか？」ノゾキコミ

提督 「いや、大鷹と淀ちやん3人で確認したから……ほら」パサッ

ボーキサイト：9178

阿武隈 「本当だ……」

提督 「大型1回だけ回したけど……そんなに使わなかったしなあ」

阿武隈 「そうですね……って、また回したんですか？」

提督 「うん。年初めに回そうと思っただけどイベ中だったからさ」パラパラ

阿武隈 「まったく……潮ちゃんに怒られても知りませんよ？」

提督「もうやられたよ」ジー

阿武隈「ああ……」

提督「……やっぱりおかしい。こんなに減るわけがないな」

阿武隈「そうですね……うん？提督、この補給表見てください」

提督「どれどれ……」

補給報告書：ボーキサイト

大鷹…… 演習後の補給

加賀…… 破損艦載機の修繕

大鷹…… 演習後の補給

Intrepid…… 開発ひょう

明石…… 開発費用

日向…… 瑞雲（六三四空）の改修費用

瑞鶴…… 補給

etc……

提督「……普通じゃね？」

阿武隈「いえ、ここ」ユビサシ

赤城…… 補給

赤 Gambier Bay…補給

赤城…補給

赤城…補給

Ark Loyal…補給

赤城…補給……………

提督「……ほおう」ピクピク

提督「……ちよつと出てくる」ガチャ

阿武隈「あっはい」

バタン

あああああああぎいいいい!!!

ダダダダ……

阿武隈「あはは……」

提督「ただいま……」ガチャ

阿武隈「おかえりなさい。…どうでした？」

提督 「おやつ禁止とおかわりなし1ヶ月」 ドカッ

阿武隈 「やっぱりクロだったんですね…」

提督 「まあな…」

く回想く

提督 『白状しろ赤城イ!!』

赤城 『濡れ衣ですよ!ガンビアさんやアークさんだつて補給してるじゃないですか!!』

提督 『誰だ「赤 Gambier Bay」つて!』

提督 『それとあーちゃんはLoyalじゃなくてRoyalだボケ!』

赤城 『ぐぬぬ』

く回想終了く

提督 「つとにアイツは…」 トントン

阿武隈 「お疲れ様です」 アハハ

提督 「はあ…なんかどつと疲れた…」

阿武隈 「肩でも揉みましようか？」

提督 「いや、大丈夫……かと思っただけどやっぱりお願い」

阿武隈 「はい」 トテトテ

提督 「……ふう。ありがとうあぶう。お礼に前髪わちやわちやしてやるよ」

阿武隈 「結構です！」

提督 「チツ……じゃあ頭撫でさせて」

阿武隈 「……まあ、それなら……」

トテトテトテ ポスツ

提督 「膝の上に座る必要あったか？」 ナデナデ

阿武隈 「撫でづらいですか？」

提督 「……いや、」

阿武隈 「ふふっ」

—阿武隈編 終 r—

提督「と見せかけて前髪どーん!!」グシヤグシヤ
グシヤ
グシヤ
阿武隈「台無しなんですケドおお!!」ワーン

—阿武隈編 終了—